

(五) 横濱正金銀行ノ融資債權確保方等
ニ關スル華中連絡部長官ノ念書

御 願

今般幣行ニ於テハ華興商業銀行設立ニ伴ヒ貴官御指圖ニ基キ中華民國維
新政府、株式會社日本興業銀行、朝鮮銀行、株式會社臺灣銀行、株式會
社三井銀行、株式會社三菱銀行及株式會社住友銀行ノ華興商業銀行ニ對
スル出資拂込金並ニ中華民國維新政府ノ華興商業銀行ニ對スル預ケ金ニ
充當スヘキ上海弗貨六千萬弗也ヲ融資スルニ付貴官ニ於テ以下各項御承
認ノ上適宜御措置相賜度此段及御願候也

一 弊行カ弊行ノ保管ニ係ル上海々關長名義海關預金中本融資額ニ相當ス
ル額ヲ本融資ノ見返リトナスニ付テハ

(イ) 本融資ノ殘存額ニ相當スル額及

(ロ) 本融資辨濟ノ爲メ被融通銀行ヨリ弊行ニ引渡サレタル華興商業銀行
株式金額ニ相當スル額

ニ對シテハ預金名義人ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ引出サシメサルコト
ニ本融資金ノ見返リトナシタル海關預金ハ凡テ無利息トスルコト

三 弊行カ彼種實銀行ヨリ本銀貸濟ノ爲華興商業銀行株式ノ引渡ヲ受ケ之ヲ保有スル時合弊行ハ必要ニ應シ該株式ヲ預金受取人ニ引渡スコトニ依リ其金額ニ相當スル額ノ限度ニ於テ弊行預金債務ヲ免責セラルルコト、且ツ上記引渡ニ際シ預金受取人ヲシテ受取ニ應セシムル條適宜措置アルコト

四 中華民國維新政府ハ將來海關預金ヲ自由ニ處分シ得ルニ至リタルトキハ第一項ニ不尙左ノ支拂ニ直ニ充當スル場合ニ限り本融資金ノ見返リトナシタル預金ヲ引出シ得ルコト

(イ) 同政府ハ之ヲ以テ其ノ幣行ニ對スル借款債務殘存額ヲ償還期限ト雖償還スルコト、且

(ロ) 弊行カ保有スル華興商業銀行株式ヲ弊行ト陽義ノ上該株式相場並ニ上海相場ヲ參酌シテ定ムル金額ヲ對價トシテ買受クルコト、但シ此ノ支拂ニ充當スル爲メ本融資金ノ見返リトナシタル預金ヨリ引出シ得ル金額ハ該株式拂込ニ際シ弊行カ融通シタル金額ヲ超ヘナルコト

ト

五 華興商業銀行設立ノ上ハ同行ニ於テ中華民國維新政府ヨリ預入ヲ受ケタル上海預金一部ヲ以テ行ヨリ英米貨ヲ買取ラシムルコト

右買取額ハ嚮ニ陸軍特務部長殿、海軍特務部長殿及海關事務局長ノ御指圖ニ基ニ其ノ計算ニ於テ海關預金ヲ以テ買入レタル英米貨中株主銀行及維新政府ニ對スル本融資金ノ交付ニ充テタル英米貨ヲ控置シタル殘額ニシテ其ノ上上海預金ニ對スル相場ハ株主銀行及維新政府ニ對スル本融資金ノ交付ニ充テタル外貨並ニ上記殘存外貨ヲ合シタルモノカ右勘定ニテ弊行買入ニ係ル外貨平均相場ト同一ナラシムル條適宜調節シタルモノタルコト

六 弊行カ本融資金ノ辨濟トシテ彼融通銀行ヨリ華興商業銀行株式ノ引渡ヲ受ケ、之ヲ保有スル場合ハ該株式ニ付キ受クヘキ配當金ハ追而貴官ノ御指圖アル迄華興商業銀行發助ノ目的ヲ以テ之カ受領ヲ遲延スヘキコト

七、發行カ本國ノ銀行トシテ被認通銀行ヨリ華商銀行株式ノ引渡ヲ受ケ、之ヲ保有スル場合政府ノ命令アリタルトキハ該株式ヲ何時ニテモ該株式相場並ニ上海外相場ヲ參酌シテ定ムル金額ヲ訂價トシテ政府ノ指定スルモノニ引渡スヘキコト、但シ其ノ引渡ノ訂價ハ當初該株式拂込ニ際シ發行カ融通シタル金額ヲ下ラサルコト

八、本國債ヲナスコトニ依リ將來如何ナル專賣發生スルトモ發行カ何等ノ損害ヲ蒙ルコトナキ僑中華民國維新政府ヲシテ萬全ノ措置ヲ講セシムルト共ニ同一發行カ損害ヲ蒙リタルトキハ同政府ヲシテ之カ賠償ノ責ニ任セシムヘキコト

若シ萬一將來專賣ノ推移ニ依リ見地政權ニ變遷ヲ生スルカ如キ場合ニ於テモ中華民國維新政府ニ代ハルヘキ政權ヲシテ前項ノ責任ヲ確認承認セシムルコト

昭和拾四年四月二十一日

興亞院華中連絡部
長官 津田 謙 枝 閣 下

右 確 認 且 諒 察 シ タ リ

昭和拾四年四月二十一日

橫濱正金銀行
上海支店支配人 岸 浪 巖 實 印

興亞院華中連絡部
長官 津田 謙 枝 印



（内）横濱正金銀行ノ融資假借確保方等
ニ關スル大藏大臣ノ念書

84

↑ 回 答 書 ↓

秘内第五九號

昭和十四年五月一日

大 藏 次 官

横濱正金銀行
頭取 大 久 保 利 賢 殿

昭和十四年四月十日附ヲ以テ御申出ニ係ル中華民國維新政府、株式會社日本興業銀行、朝鮮銀行、株式會社臺灣銀行、株式會社三井銀行、株式會社三菱銀行及株式會社住友銀行ニ對スル貴行ノ借款假借確保方等ニ關スル件ハ貴見ノ通り御了知相成度
右依命及回答候也

85

109

110

御 伺

今般弊行ニ於テハ華興商業銀行設立ニ伴ヒ弊行上海支店ノ保管スル上海海關長名義海關收入預金ヲ見返リトシテ中華民國維新政府、株式會社日本興業銀行、朝鮮銀行、株式會社臺灣銀行、株式會社三井銀行、株式會社三菱銀行及株式會社住友銀行ノ華興商業銀行ニ對スル出資額込金並ニ中華民國維新政府ノ華興商業銀行ニ對スル預ケ金ニ充當スベキ上海弗貨六千萬弗也ヲ融資スルコト、相成候座本融資ニ於テハ其成立ノ沿革ニ據リ

一、中華民國維新政府ヲシテ本融資ニ關スル債務及契約上ノ責任ヲ負擔履行セシムルハ勿論將來萬一事態ノ推移ニ依リ現地政體ニ變更ヲ生ズルガ如キ場合ニ於テモ同政府ニ代ハルベキ政權ヲシテ之ヲ確認承繼セシムルコト

二、本融資ノ見返リトナシタル海關預金ハ被融通者ヨリ現金辨濟ヲ受クル迄又ハ本融資ノ代物辨濟トシテ華興商業銀行株式ヲ弊行ニ於

テ保有スル間ハ其ノ範圍ニ於テ預金名義人ニヨリ引出サルルコトナキ疎措置願度コト、與一名義人ノ要求ニ應スルノ已ムヲ得ザル事態ニ立到リタル時ハ融通金額ニ該當スル資金ノ給與ニ付御配慮願度キコト

三、被融通者ヨリ代物辨濟トシテ華興商業銀行株式ノ引渡ヲ受ケ弊行之ヲ保有スルニ到リ將來同株式ヲ以テ預金受取人ニ對シ預金支拂ニ代ヘテ之ヲ交付スル場合弊行ノ預金債務ハ其ノ交付株式ノ金額ノ限度ニ於テ消滅ス可キコトヲ御承認願度キコト

四、其他本融資ヲナスニ付將來如何ナル事態發生スルトモ弊行ニ何等損害ヲ生セサルコト

ニ付政府ニ於カレテモ適宜必要ナル御措置相賜度願上申候、尙本融資ノ辨濟ニ付被融通銀行カ弊行ト協議、上華興商業銀行株式相場並ニ上

中華興商業銀行暫行條例 (譯文)

海軍實相場ヲ參酌シテ定ムル金額ヲ發行ニ支拂フ場合並ニ發行ノ保有
 ニ關シタル華興商業銀行株式ヲ上記同様ノ方法ニ依リテ定ムル金額ヲ
 對價トシテ中華民國政府ニ賣渡ス場合又ハ政府ノ御命令ニ基キ政
 府ノ指定セララル、モノニ引渡ス場合ニ發行ニ生スルコトアル可キ利益
 金ノ處理ニ付テハ其部度御指示相成度候
 上掲各項ニ關スル政府ノ御方針モ亦茲ニ存スルモノトハ推察能ハ在候得
 共爲念御意憐及御伺候也

昭和十四年四月十日

横濱正金久銀行 利資

大藏大臣 石渡 莊 太郎 殿

中華民國維新政府行政院令 二十八年四月十一日
茲ニ華興商業銀行條例ヲ制定シ之ヲ公布ス此ニ令ス

行政院長 梁 鴻 志

華興商業銀行暫行條例（譯文）

- 第一條 華興商業銀行ハ株式會社トシ對外貿易金融業務及其他ノ銀行業務ヲ行フヲ以テ目的トス
- 第二條 華興商業銀行ノ資本金ハ華幣五千萬元トシ總行ヲ上海ニ設置シ並ニ必要ノ地方ニ分支行ヲ設置スルコトヲ得
- 第三條 華興商業銀行ニ總裁及副總裁各一人理事五人以上監事三人ヲ置ク
- 第四條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ任命シ其任期ハ各四年トス
理事監事ハ株主總會ニ於テ選舉シ政府ニ申請シ認可ヲ得テ就任スルモノトス任期ハ三年トシ監事ノ任期ハ一年トス

- 第五條 總裁ハ華興商業銀行ヲ代表シ行務ヲ總理シ並ニ理事會行務總督及株主總會ヲ主宰ス
副總裁ハ總裁ヲ補佐シ行務ヲ處理シ總裁事故アルトキハ其職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其職務ヲ代行ス
- 第六條 華興商業銀行ハ命令ノ定ムルニコロニ依リ兌換券及儲蓄券ヲ發行スルコトヲ得
- 第七條 華興商業銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ國庫及勸借事務ノ全部又ハ一部ヲ代理スルコトヲ得
- 第八條 華興商業銀行ノ定款ヲ變更セントスルトキハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

ハ
華興商業銀行ニ兌換券及輔幣券、
發行權ヲ賦與スルノ件

華興商業銀行ニ兌換券、
輔幣券、
發行權ヲ賦與スルノ件

華興商業銀行

其行ニ對シ左記ニ依リ兌換券及輔幣券ヲ發行スルノ權限ヲ賦與ス

記

一、兌換券發行ニ對シテハ少クとも其發行額ノ六割ニ相當スル外國
貨幣、金銀地金又ハ確實ナル外貨證券若ハ外國爲替ヲ現金準備
トシテ保有シ其殘額ニ對シテハ商業手形又ハ確實ナル證券ヲ
保證準備トシテ保有スヘシ

二、輔幣券發行ニ對スル準備ニ付テハ前記ニ準ス

三、兌換券及輔幣券ノ發行狀況ニ付キ毎旬一回財政部ニ報告スヘシ

中華興業銀行定款

財政部、保證發行額五厘、利息ニ達スル迄發行税ヲ免除ス
中華民國二十八年五月一日

行政部長 梁鴻志

華興商業銀行定款

第一章 總則

第一條 本行ハ株式會社組織トシ華興商業銀行ト稱ス
第二條 本行ハ本店ヲ上海ニ置キ業務上必要ナルトキハ國內トニ分支店
及辦事處ヲ置ク又他ノ金融機關ト代理契約及爲替契約ヲ締結スルコト
ヲ得

前項ノ分支店ノ設置及廢止ハ政府ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 本行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿二十年トス但株主總會ノ決議
ヲ經政府ノ認可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 資本金

第四條 本行ノ資本金額ハ五千萬圓トシ之ヲ五十萬株ニ分チ一株ノ金額
ヲ百圓トシ全額拂込トス

本行ノ資本金額ハ株主總會ノ決議ヲ經政府ノ認可ヲ得テ之ヲ増減スル
コトヲ得

第五條 本行ハ株式ニ對シテハ記名式證券ヲ發行ス但株主ノ請求ニ依リ
株式登録簿ニ登録シテ之ニ代フルコトヲ得

第六條 株主及其法定代理人ノ氏名、住所及印章ハ株主名簿ニ登録ス而
號等ノ名義ヲ用フルモノニハ其代表者ノ氏名及印章ヲ蓋スヘシ變更ア
リタルトキハ速ニ本行ニ届出ツヘシ

第七條 本行株券ノ券面種類ハ一、十、百、千、四種トシ株主
ハ券面種類ノ交換ノ請求スルコトヲ得

第八條 株券ヲ讓渡セントスルトキハ讓渡人及讓受人連署シタル申請書
ニ株券ヲ添ヘ本行ニ提出スヘシ

株券ヲ相對セントスルトキハ相對申請書ニ株券及相對證明書ヲ添ヘ本
行ニ提出スヘシ

株券ヲ質入セントスルトキハ株主ハ株主ト債務者ト異ルトキハ債務者
共一及質權者連署シタル質入申請書ヲ本行ニ提出スヘシ

株式登録簿ニ登録セラレタル株式ニ付テハ夫々前二項ノ規定ヲ準用ス

前四項ノ場合ニ於テハ本行ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ本行ニ對抗スル
コトヲ得ス

第九條 株券ヲ遺失シタルトキハ遅滞ナク喪失届ヲ本行ニ提出スヘシ
本行ハ遺失者ノ費用ニ於テ本行指定ノ新聞紙ニ公告ヲ爲シ三箇月ヲ經
過スルモ異議ノ申立ナカリシトキハ其株券ヲ無効トシ遺失者ニ新株券
ヲ交付ス

第十條 株券ヲ汚損シタルトキハ引換申請書ニ株券ヲ添ヘ本行ニ提出シ
新株券トノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 株式名義書換手数料ハ株式一枚ニ付二角トシ新株券交付手
料ハ一枚ニ付五角トス
株式登録簿ニ登録セラレタル株式ノ名義書換手数料ハ一件ニ付三角ト
ス

第十二條 本行總會開會前一月ハ株式ノ名義書換及引換ヲ停止ス
前項ノ期間ハ緊急ノ場合ハ之ヲ十五日ニ短縮スルコトヲ得

第三章 業務

第十三條 本行業務ノ範圍左ノ如シ

- 一 匯兌ナル商票手形ノ割引
- 二 確証ナル有價證券ノ買入又ハ換價容易ナル商品ヲ擔保トスル貸付及
手形割引
- 三 國內外爲替及荷爲替ノ買賣
- 四 地金銀及外國貨幣ノ買賣
- 五 匯買ナル有價證券ノ代理應募及引受
- 六 各種預金ノ受入
- 七 取引先ノ爲ニスル手形ノ取立
- 八 金銀其他貴重物品並諸證券類ノ保護預
- 九 各種貯蓄及信託業務
- 第十四條 本行ハ政府ノ委託ニ依リ國庫及國債事務ノ全部又ハ一部ヲ取
扱フコトヲ得

第十五條 本行ハ左ノ業務ヲ営ムコトヲ得ス

一 投資ヲ目的トスル借取引

二 無擔保又ハ不動產ヲ擔保トスル貸付及保費

三 自行株式ノ買入及自行株式ヲ擔保トスル貸付

四 自行役員及使用人ニ對スル貸付

五 爲票上ノ必要ニ基カサル不効證ノ取得但理事會ノ同意ヲ得テ行務ノ

經濟トシテ取得スル場合ヲ除ク

六 各種商工業ノ直接經營

第十六條 本行ハ政府ヨリ賦課セラレタル特種ニ基キ兌換券及附帶券ヲ發行スルコトヲ得共ノ發行狀況ニ付テハ毎旬一回政府ニ報告ス可キモノトス

第四軍 組 俄

第十七條 本行ニ總裁一名、副總裁一名、理事五名以上及監事三名以内ヲ置ク

第十八條 總裁及副總裁ハ政府之ヲ任命シ其ノ任期ヲ四年トシ重任ヲ妨ケス

第十九條 總裁ハ本行ヲ代表シ行務ヲ總理シ理事會、行務會議及株主總會ヲ主宰ス

第二十條 副總裁ハ總裁ヲ補佐シテ全行ノ事務ヲ處理シ總裁事故アルトキハ其職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキハ其職務ヲ行フ

第二十一條 理事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケ可キモノトス其ノ任期ハ三年トシ重任ヲ妨ケス

第二十二條 總裁ハ理事ノ内二名又ハ四名ヲシテ常務ニ從事セシム

第二十三條 監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ケ可キモノトス其ノ任期ハ一年トシ重任ヲ妨ケス

第二十四條 監事ノ内一名ヲ常務監事トシ監事會中ヨリ之ヲ互選ス

常務理事ハ該理事會ヲ代表ス

第二十五條 總理、副總理、常務理事及常務監事ハ在任中期間、職務ヲ兼
ヌル事ヲ得ス但政府ノ認可ヲ得タル場合ハ此限ニ在ラス

第二十六條 總理、副總理、理事及監事ハ其任期ヲ超過スルモ後任者ノ
就任スル迄繼續シ、其職務ヲ行フ

第二十七條 理事及監事ニ缺員ヲ生シタルトキハ株主總會ニ於テ補選ス
ル前項ニ依リ選出セラレタル理事及監事ノ任期ハ夫々前任者ノ任期ニ依
ル

第五章 理事會

第二十八條 理事會ハ總裁、副總裁及理事ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十九條 理事會ノ職務左ノ如シ

- 一、一般營業方針ノ決定
- 二、分支店及辦事處ノ設置及廢止
- 三、代理契約及爲替契約ノ締結及改廢

四、重要ナル規定ノ制定及改廢

五、兌換券、儲蓄券及發行準備ニ關スル事項ノ審議決定

六、決算及決算ノ審議

七、主要職員ノ任免

八、株主總會ノ期日及附議事項ノ決定

九、其他重要ナル事項ノ審議決定

第三十條 理事會ハ少クとも毎週一回會長之ヲ招集シ出席職員ノ過半数
ヲ以テ議決ヲ爲ス可谷同數ナルトキハ會長之ヲ決ス但會員ノ半数以上
出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 理事會ニ於テハ議事録ニ議決ノ内容ヲ記載シ出席會員之ニ
署名又ハ記名捺印スヘシ

第六章 監事會

第三十二條 監事會ハ監事ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十三條 監事會ノ職務左ノ如シ

一、一般業務ノ監査
 二、帳簿證券及現金ノ検査
 三、兌換券及補替券ノ發行額並發行準備ノ検査
 四、決算ノ審議
 監事會ハ必要ト認ムルトキハ理事會及株主總會ニ對シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十四條 理事會ハ少クトモ毎月一回常務監事之ヲ招集ス
 第三十條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七章 行務會議

第三十五條 行務會議ハ總裁、副總裁、理事及監事之ヲ集議ス

第三十六條 行務會議ニ於テ議ス可キ事項左ノ如シ

一、利益金處分案ノ決定

二、理事會及監事會ノ審議ニ屬セザル重要事項ノ議決

第三十七條 行務會議ハ必要ニ應シ會長之ヲ招集シ出席會員ノ過半數ヲ

以テ議決ヲ爲ス可ク同數ナルトキハ會長之ヲ決ス但理事會員及監事會員各半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
 第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八章 株主總會

第三十八條 株主總會ハ左ノ二種ニ分ツ

一、通常株主總會

二、臨時株主總會

第三十九條 通常株主總會ハ毎年一回理事會之ヲ招集ス

臨時株主總會ハ總裁又ハ理事會必要ト認メタルトキ理事會之ヲ招集ス

第四十條 株主ハ故ニ因リ株主總會ニ出席スルコト能ハサルトキハ他ノ

株主ニ代理セシムルコトヲ得此場合代理人ハ代理權ヲ證明スル等面ヲ

本行ニ提出スヘシ

第四十一條 株主ノ議決權ハ一沐ヲ以テ一個トス十株以上ニ付テ八十株

毎ニ一個ヲ過言ス

第四十二條 株主ニシテ會議ノ目的タル事項ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決ニ加リ又ハ他ノ株主ヲ代理シテ其議決ヲ行フコトヲ得ス

第四十三條 株主總會ノ開會ハ朔會ノ日ヨリ一箇月以前ニ(新聞紙ニ)公告シ凡ツ書面ヲ以テ各株主ニ明日ノ場所及議程ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ期間ハ緊急ノ場合ハ之ヲ十五日ニ短縮スルコトヲ得

第四十四條 株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ缺席シタル株主之ヲ否認スルコトヲ得ス

第四十五條 株主總會ノ議程ハ招集通知書記載ノ事項ニ限ル

理事會ハ重要事項アルトキハ必要ニ應ジ議程ノ追加ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニハ遲滞ナク各株主ニ其旨通知スルコトヲ要ス

第四十六條 株主總會ハ資本金額ノ半額以上ニ相當スル株主出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第四十七條 株主總會ノ議決ハ出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十八條 理事會ハ通常株主總會開會十日以前ヨリ左ノ書類ヲ監事會ノ報告書ト共ニ本店ニ備ヘ株主ノ閱覽ニ供スヘシ

一 資産負債表

二 損益計算書

三 財産目録

四 營業報告書

五 利益金處分案

第四十九條 理事會ハ前條ノ書類ヲ通常株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムヘシ

前項ノ承認アリタルトキハ本行ハ總裁、副總裁、理事及監事ニ對シ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但不正ノ行爲アリタル場合ハ此限ニ在ラス

第五十條 株主總會ノ決議錄ニハ決議ノ要領ヲ記載シ總裁、副總裁、理

第四十二條 株主ニシテ會議ノ目的タル事項ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其議決ニ加リ又ハ他ノ株主ヲ代理シテ其議決ヲ行フコトヲ得ス

第四十三條 株主總會ノ開會ハ朔會ノ日ヨリ一箇月以前ニ(新聞紙ニ)公告シ凡ツ書面ヲ以テ各株主ニ明日ノ場所及議程ノ通知ヲ發スヘシ

前項ノ期間ハ緊急ノ場合ハ之ヲ十五日ニ短縮スルコトヲ得

第四十四條 株主總會ニ於テ議決シタル事項ハ缺席シタル株主之ヲ否認スルコトヲ得ス

第四十五條 株主總會ノ議程ハ招集通知書記載ノ事項ニ限ル

理事會ハ重要事項アルトキハ必要ニ應ジ議程ノ追加ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニハ遲滞ナク各株主ニ其旨通知スルコトヲ要ス

第四十六條 株主總會ハ資本金額ノ半額以上ニ相當スル株主出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第四十七條 株主總會ノ議決ハ出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲

行フ

第五十六條 本定款ニ規定ナキ事項ハ法令並慣習ニ照シテ之ヲ行フ

第五十七條 本定款ヲ變更セントスル場合ニハ株主總會ノ決議ヲ經テ政府ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五十八條 發行人ノ姓名及引受株數左ノ如シ

- | | |
|-------|------------|
| 五 萬 株 | 中華民國維新政府 |
| 四 萬 株 | 株式會社日本興業銀行 |
| 四 萬 株 | 朝鮮銀行 |
| 四 萬 株 | 株式會社臺灣銀行 |
| 四 萬 株 | 株式會社三井銀行 |
| 四 萬 株 | 株式會社三菱銀行 |
| 四 萬 株 | 株式會社住友銀行 |

中華民國二十八年 月 日
中華民國維新政府

事、監事及出席株主ノ内二名之ニ署名又ハ記名捺印スヘシ

第九章 決算及利益金處分

第五十一條 本行ノ決算期ハ毎年六月三十日及十二月三十一日トス

第五十二條 本行ハ每期利益金ノ内ヨリ其十分ノ一ヲ積立ツヘシ

第五十三條 本行ノ株式配當ハ民間所有株式ニ對スル配當ヲ優先セシメ民間所有株式ニ對スル配當年利五分ニ對シ尙剩余アルトキハ政府所有株式ニ對シ年利三分ニ至ル迄配當ヲ爲ス

第五十四條 前二條ノ積立及配當ヲ爲シタル後尙剩余アルトキハ其十分ノ二以内ヲ役員賞與金トシ殘餘ヲ特別配當金、特別積立金及後期繰越金ニ充ツ

特別配當ハ政府所有株式及民間所有株式ニ對シ同率ヲ以テ之ヲ行フ

特別積立金ハ前條ノ配當ノ不足ヲ補フ爲之ヲ使用ス

第十章 附 則

第五十五條 本行ノ公告ハ政府公報及本店所在地ノ新聞ニ掲載シテ之ヲ

右代理人	株式會社三井銀行	右代理人	株式會社三井銀行	右代理人	株式會社三井銀行	右代理人	株式會社三井銀行	右代理人	株式會社三井銀行
上海支店長	取締役會長	上海支店長	取締役會長	上海支店長	取締役會長	上海支店長	取締役會長	上海支店長	取締役會長
川口	大平	野崎	加藤	林	万代	岡本	嶋	嶋	嶋
一	作	美	男	助	順四郎	市			

株式會社臺灣銀行	朝鮮銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行	株式會社日本興業銀行
頭取	總裁	總裁	總裁	總裁	總裁	總裁	總裁	總裁	總裁
保田次郎	松原純一	岸浪義實	米市公	家	家	家	家	家	家



發起人總代選出決議書

中華民國維新政府外六名ハ華興商業銀行發起人トシテ株式會社日本興業銀行ヲ發起人總代ニ選出シ之ニ定款ノ作成其ノ地設立ニ關シ必
要ナル一切ノ行爲ヲ委任ス

中華民國二十八年五月一日

華興商業銀行發起人

中華民國維新政府

財政部部務代理 嚴 家 誠

株式會社日本興業銀行

總 裁 廣 來 市 公

右代理人

橫濱正金銀行上海支店

(十)

發起人總代選出決議書

株式會社三井銀行
 取締役會長 萬代 順四郎
 右代理人 林 悌助
 上海支店長

株式會社三菱銀行
 取締役會長 加藤 武男
 右代理人 野崎 正美
 上海支店長

株式會社住友銀行
 專務取締役 大平 賢作
 右代理人 川口 巖一
 上海支店長

支記人 岸浪 泰實

朝鮮銀行
 總 裁 松原 純一
 右代理人 上海支店支配人 大草 亮一

株式會社臺灣銀行
 頭 取 保田 次郎
 右代理人 上海支店支配人 岡本 滿一



理事及監事選任決議書
 中華民國二十八年五月一日上海大 路新亞細亞ホテルニ於テ華興
 商業銀行ノ理事及監事ノ選任ニ關シ發起人ノ總決議權ヲ以テ左ノ
 事項ヲ決議ス

- 沈 蔚 昌
- 海老原 竹之助
- 坂 克 諧
- 岡崎 嘉平太
- 右四名ヲ理事ニ選舉ス
- 陳 日 平
- 右一名ヲ監事ニ選舉ス

(十一)

理事及監事選任決議書

朝鮮銀行

總裁 松原 純一

右代理人

上海支店支配人 大草 志一

株式會社臺灣銀行

頭 取 深田 次郎

右代理人

上海支店支配人 岡本 瀧市

株式會社三井銀行

取締役會長 萬代 順四郎

右代理人

上海支店長 林 悌助

右決議ヲ明確ナラシムル爲此ノ決議書ヲ作り出席者左ニ記名捺印ス

中華民國二十八年五月一日

華興商業銀行發起人

中華民國維新政府

財政部部務代理 戚 家 璇

株式會社日本興業銀行

總裁 賈 采 市 松

右代理人

橫濱正金銀行上海支店

支配人 岸 浪 養 賢

181

(十三) 理事及監事就任認可申請書

146

180

株式會社三菱銀行	株式會社住友銀行
取締役留長 加藤武男	事務取締役 大平資作
右代理人 野崎正美	右代理人 川口熾一
上海支店長	上海支店長

145

此段及仰申請候也

中華民國二十八年五月一日

華興商業銀行發起人總代

株式會社日本興業銀行

總 裁 兼 來 市 公

橫濱正金銀行上海支店

支 配 人 岸 浪 義 資

財政部務代理
廠 家 廠 殿

理事及監事就任認可申請書

華興商業銀行

理 事 沈 剛 昌

理 事 海 老 原 竹之助

理 事 戰 克 諧

理 事 岡 崎 嘉平太

監 事 陳 日 平

右華興商業銀行創立總會ニ於テ華興商業銀行理事及
監事ニ夫々選舉セラレ候ニ付就任方御認可被成下度

四 萬 株	四 萬 株	四 萬 株	四 萬 株	四 萬 株	五 萬 株	貳 拾 五 萬 株	株 數
四 百 萬 圓	四 百 萬 圓	四 百 萬 圓	四 百 萬 圓	四 百 萬 圓	五 百 萬 圓	貳 千 五 百 萬 圓	額 面 金 額
全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	拂 込 金 額
株 式 會 社 住 友 銀 行	株 式 會 社 三 菱 銀 行	株 式 會 社 三 井 銀 行	株 式 會 社 臺 灣 銀 行	朝 鮮 銀 行	株 式 會 社 日 本 興 業 銀 行	中 華 民 國 維 新 政 府	株 主

株 主 名 簿

(吉)
株 主 名 簿



檢査役選任申請書
華英商銀行

監事	理事	理事	理事	理事	副總裁	總裁
陳	岡崎	坂	海老原	沈	藤尾	陳
日	嘉平	克	原竹	爾	誠	錦
平	太	諧	之助	昌	一	壽

(十四)
檢査役選任申請書



附 屬 書 類

一、定 款 寫 冊

二、總裁及副總裁、任命並理事及監事、選任ヲ證スル書類

三、株式拂込ヲ證スル書類

登 通 登 通 登 通

中華民國二十八年五月一日

右申請人

總 裁 陳 錦 濤

申請、理由

石華興商業銀行ハ資本、總額五千萬圓株式、總數五拾萬株壹株、金額百圓
 ノ以テ銀行業務ヲ營ムコトヲ目的トシ中華民國二十八年五月一日其、定款
 ヲ作成シ同年五月一日發起人七名ニ於テ其、株式總額ヲ引受ケ同年五月一
 日申請人ハ其、總裁副總裁及理事ニ任命又ハ選定セラレタリ依テ検査、目
 的事項、調査ヲ求ムル爲茲ニ検査役、選任ヲ申請ス

設 法 、 目 的

一、株金、拂込ヲ爲シタリ

二、金銀以外、財産ヲ以テ出資スル者

三、發起人ノ受クヘキ特別利益

四、會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及發起人ノ受クヘキ報酬

前記検査ノ目的事項ヲ調査セシムル爲検査役選任相成度此段及申請候也

無シ 無シ 無シ

(十五)
株式会社設立登記申請書

實業部長 壬子 惠 殿

副 總 裁	尾 一
理 事	沈 爾 昌
理 事	海 老 原 竹 之 助
理 事	戰 克 諧
理 事	岡 崎 嘉 平 太

株式、總數
 五十萬株
 四 一株ノ金額 百圓
 五 本店分支店及其所在地

本店	上海
分店	南京

- (3) 國內外爲替及荷爲替、賣買
- (4) 地金銀及外國貨幣、賣買
- (5) 確實ナル有價證券、代理應募及引受
- (6) 各種預金、受入
- (7) 取引先、爲ニスル手形、取立
- (8) 金銀其他貴重品並諸證券類、保護預
- (9) 各種貯蓄及信託業務

株式會社設立登記申請書

一、會社、名稱 華興商業銀行
 一、本店 上海

一、登記ノ目的 株式會社設立、登記

一、登記ノ事由 中華民國二十八年五月一日發起人ニ於テ株式、總數ヲ引受ケ中華民國二十八年五月一日検査役、検査ヲ經タルニ付左ノ事項、登記ヲ求ム

一、登記事項

- (一) 會社、名稱 華興商業銀行
- (二) 營業
 - (1) 確實ナル商業手形、割引
 - (2) 確實ナル有價證券、債權又ハ換價容易ナル商品ヲ擔保トスル貸付及手形割引

一定 添付書類
 一、株主名簿
 一、任命又ハ選任セラレタル總裁
 一、副總裁及理事ノ氏名表
 一、檢査證書

壹通
壹通
壹通
壹通

上海大 路四百二十二號新亞細亞飯店
 理 事 職 克 諸
 上海 祥德路七十六 四號
 理 事 岡 崎 嘉平太
 上海 崑崙路崑崙谷 卅十號
 監 事 陳 日 平

(內會社カ公告ヲ爲ス方法)

各株ニ付拂込ミタル金額

一株ニ付 百圓也

(八)總裁、副總裁、理事及監事ノ姓名及住所

上海 貴榮安路東方村十八

總 裁 陳 錦 濤

上海 天 路四百二十二號新亞細亞飯店

副總裁 篤 尾 磯 一

上海 北蘇州路二十號百老匯飯店

理 事 沈 嗣 昌

上海 天 路四百二十二號新亞細亞飯店

理 事 海 老 原 竹之助

(十六)

本邦 儲蓄銀行ノ大蔵大臣宛提出ノ
諸申請書並之ヲ認可書

一、營業概算書
右及申請狀也
中華民國二十八年五月一日

華興 函 渠 銀行

電通

右申請人

實業部長 王子恩殿

總 裁	陳 錦 濤
副 總裁	沈 篤 一
理 事	沈 篤 一
理 事	海 老 原 昌
理 事	戰 克 竹 之 助
監 事	岡 崎 嘉 平 太
監 事	陳 日 平

大蔵大臣 石 渡 莊太郎 殿

株式引受認可申請書
今般上海ニ設立セラレヘキ華興商業銀行ノ株式ヲ發行ニ於テ引受致度候ニ就テハ御認可相成度此段并行法第九條第二項ニ據リ申請仕候也

昭和十四年四月十日

株式會社日本興業銀行

總裁 廣 采 市 松

認 可 書

株式會社日本興業銀行

本年四月十日附申請華興商業銀行株式引受ノ件認可ス
昭和十四年四月十七日

大 蔵 大 臣

株式會社臺灣銀行ヨリ華興商業銀行株式引受致度趣ヲ以テ別紙寫ノ通
認可方申請有之候處本日認可相成候條御了知相成度此段及通報候也

臺灣總督府臺灣銀行監理官 (宛)

銀行局長

昭和十四年四月十七日

通報書

認可書

株式會社臺灣銀行

本年四月八日附支第七二三號申請華興商業銀行株式引受ノ件認可ス
昭和十四年四月十七日

大臣 大藏



一、華興商業銀行株式

記

本年四月八日附東總外第八二八號申請朝鮮銀行法第十七條第二項ニ依
ル有價證券ニ關スル件左記ノ通指定ス

昭和十四年四月十七日

大藏大臣

朝鮮銀行

指 定 書

文部七二三號 昭和十四年四月八日

株式會社 臺灣銀行

頭 取 保 田 次 郎

大藏大臣 石 渡 莊 太 郎 殿

華興商業銀行株式所有認可申請ノ件

今回上海ニ設立セラルベキ華興商業銀行株式ヲ當行ニ於テ所有致度キ
ニ付臺灣銀行法第五條第二項ニヨル有價證券トシテ御認可仰キ度ク此
段及御申請候也

大蔵大臣 石 渡 莊 太 郎 殿
一、華興商業銀行株式ヲ所有有價証券ニ指定方申請ノ件
今回上海ニ設立セラレベキ華興商業銀行株式ヲ發行ニ於テ所有致度候
ニ付朝鮮銀行法第十七條ニ依ル有價証券トシテ御指定相仰度此段及御
願候也

東總外第八二八號

昭和十四年四月八日

朝鮮銀行

總裁 松原 純 一

通 報 書

昭和十四年四月十七日

銀行局長

朝鮮總督府財務局長 宛

朝鮮銀行ヨリ別紙寫ノ朝鮮銀行法第十七條第二項ニ依ル有價証券ノ
指定方申請有之候處本日指定相成候候此段及通報候也

外貨証券、有價取得許可申請書

一、申請者、住所 東京市麹町區丸ノ内一丁目八番地一
職 業 銀行業

商 號

一、外貨証券、名 稱 華興商業銀行株式
金 額 額面五百萬圓也（但シ新銀行券表示、全額拂込
済）

數 量 五萬株（額面壹株ニ付壹百圓也）

所在地 中華民國、上海

種類及確定額 上海外貨五百萬圓也ニ相當スル英貨

一、外貨証券、受渡地 中華民國、上海

一、取引、相手方 華興商業銀行資本金拂込金管理者

華興商業銀行株式（外貨証券）取得許可、件
（六銀行分同一形式ニ成ル）

外貨証券有價取得許可證

昭、拾四銀第一號

株式會社日本興業銀行

昭和十四年四月十一日附別紙申請、件許可

許可証券 華興商業銀行株式（一株ニ付百圓）額面五百萬圓（但
新銀行券表示、全額拂込済）

昭和十四年四月十二日

大 藏 大 臣

號爲總第五一四四號
昭、拾四銀特第一號

外貨貸付金契約特別許可證

積 積 正 金 銀 行

昭和十四年四月十三日付別紙申請ノ件許可ス

(許可金額貳千五百萬上海幣)

昭和十四年四月十五日

大藏大臣 石 渡 莊 太 郎 閣

大藏大臣 石 渡 莊 太 郎 殿

株式會社日本興業銀行

裁 廣 來 市 公

一、取得ノ豫定時期 昭和十四年四月十四日
二、取得ヲ必要トスル理由 華興商業銀行設立ニ參加ノ爲メ
石ノ通り外貨証券ノ有償取得御許可被成下度此段及申請候也

昭和十四年四月十一日

一、契約、設定時期
二、契約、目的其他
之ヲ必要トスル
理由

三、住所
朝市街 銀行
東京市麹町區丸ノ内一丁目二番地、一

四、住所
東京市日本橋區室町貳丁目壹番地壹

五、住所
東京市麹町區丸ノ内貳丁目五番地壹

六、住所
株式會社三菱銀行
東京市東區北濱五丁目二十二番地

七、住所
株式會社住友銀行
大阪市東區北濱五丁目二十二番地

昭和拾四年四月拾四日
中華民國上海ニ於テ設立ヲ見ル可キ華興商業銀
行出資金トシテ發行ヨリ前記六行ニ對シ各行ガ
夫々引受ケタル株式拂込金額ニ相當スル資金ヲ
融通スル爲メ

申請者、住所
一、契約、種類
二、契約、金額
三、契約、相手方
四、契約、相手方

外國通貨ヲ以テ表示スル債權ヲ取得
スベキ消費貸借契約特別許可申請書

申請者、住所
横濱市中區南仲通五丁目六拾番地
銀行
横濱正金銀行
上海外資銀行
貨付金契約
返納期限
昭和拾六年四月拾參日
無利息
借受人ガ本契約ニ依リ借受ケタル金
額ヲ拂込ムコトニ依リ取得スベキ華
興商業銀行株式ヲ擔保トス
東京市麹町區丸ノ内一丁目八番地
銀行
株式會社日本興業銀行
東京市麹町區大手町貳丁目四番地、貳
銀行

本年四月十一日附ヲ以テ御申出ニ係ル華興商業銀行株式擔保券人ノ件
ハ御申出ノ通取計相成券支辨之依命此段及回答候也

株式會社日本興業銀行
朝鮮銀行
株式會社臺灣銀行
三井銀行
三菱銀行
任友銀行

宛

昭和十四年四月十八日

大藏次官

大藏大臣 石渡莊太郎 殿

右ノ通外國通貨ヲ以テ表示スル債權ヲ取得スベキ消費貸借契約締結致
度候間御許可被成下度此段及申請候也
昭和十四年四月拾參日

横濱正金銀行
副頭取 水津 彌吉

株式會社日本興業銀行	上海佛實五百萬弗也
朝鮮銀行	四百萬弗也
株式會社臺灣銀行	四百萬弗也
株式會社三井銀行	四百萬弗也
株式會社三菱銀行	四百萬弗也
株式會社任友銀行	四百萬弗也
計	上海佛實貳千五百萬弗也

一、其他參考トナル 消費貸借契約ハ前記銀行各別ニ之ヲ行ト其金額
ベキ事項 左ノ如シ

御 願
今般弊行ニ於テ華興商業銀行株式四萬株拂込資金ニ充當ノ爲メ横濱正
金銀行ヨリ上海弗貨四百萬弗也、融通ヲ受クルコトト相成候處右融通
金ニ對スル擔保トシテ前記株式四萬株ヲ同行へ差入度候ニ就テハ何卒
御許可相賜度此段及御願候也

昭和拾四年四月拾壹日

朝鮮銀行
總裁 松原純一
株式會社臺灣銀行
頭取 保田次郎

御 願
今般弊行ニ於テ華興商業銀行株式五萬株拂込資金ニ充當ノ爲メ横濱正
金銀行ヨリ上海弗貨五百萬弗也、融通ヲ受クルコトト相成候處右融通
金ニ對スル擔保トシテ前記株式五萬株ヲ同行へ差入度候ニ就テハ何卒
御許可相賜度此段及御願候也

昭和拾四年四月拾壹日

株式會社日本興業銀行
總裁 寶來市松
大藏大臣 石渡 莊太郎 殿

新聞記事解禁ニ關スル内務省通牒
 (一四四二八)

客年六月二十九日附外務省令ニ依ル記事掲載禁止示達事項「中支ニ於
 テル弊制ニ關スル帝國政府ノ意圖ニ關スル件」中、華興商業銀行ニ付
 テハ其ノ資本金ノ調達方法ニ關スル事項ヲ除キ本月三十日附朝刊ヨリ
 記事掲載支無之

大藏大臣 石 渡 莊太郎 殿

株式會社三井銀行	代 領 四 郎
取締役會長	加 藤 武 男
株式會社三越銀行	加 藤 武 男
取締役會長	大 平 實 作
株式會社住友銀行	
專務取締役	

第一	名稱及組織	(一—一四)
第二	資本及役員	(五—一〇)
第三	銀行券の發行	(十一—十三)
第四	強制通用力	(十四)
第五	兌換準備及價值基準	(十五—十七)
第六	法附下ノ關係	(十八—二十)
第七	軍票、日紙券下ノ關係	(二十一—二十二)
第八	流通及經營收支ノ見込	(二十三—二十四)

(十七) 新聞記者等ニ對スル慰定質疑應答

本書ハ應答者ノ心電エニシテ應答者如何ニ依リ表
 現ヲ異ニスヘキ點アルコトニ注意スルコト、又本
 書ハ新聞記者其他部外者ニハ交付セザルモノトス

参考

外務省令關係記事掲載注意事項

通牒月日	通牒事項	注意
十三年 六月二十九日	中支ニ於ケル幣制ニ 關スル帝國政府ノ意 向ニ付テハ外務省發 表以外一切之ヲ新聞 紙ニ掲載セザル様	月日 十三年 十二月 二十二日
		注意事項 中支ニ新發券銀行設立セラ ルルヤニ關スル記事ハ本年 六月二十九日附通牒ハ外務 省令ニ依ル記事掲載禁止示 達事項中支ニ於ケル幣制ニ 關スル帝國政府ノ意向ニ關 スル件ニ抵觸スルモノニ付 之ヲ新聞紙ニ掲載セザル様

- 第九 流通妨害ニ對スル罰則 (二十五)
- 第十 流通範圍 (二十六—二十九)
- 第十一 貿易管理等 (三十一—三十一)
- 第十二 其他
- 一、名稱

華興商業銀行
(Hua Hsing Commercial Bank,)

二、國籍

中華民國維新政府法人

三、店舖
總行上海寶樂安路二號、分行南京滙康路、朱家角角（右ハ五月〇日同時ニ開業ノ豫定）
右ノ他必要ノ箇所ニ順次分支行辦事處ヲ設クル外他銀行（當初ニ於

- 四、租界内ニモ店舗ヲ設クルヤ
總テ租界内ニモ店舗ヲ設クル豫定テ其準備中テアル
- 五、資本金
新幣建五千萬圓全額拂込
尙右拂込ハ全額外貨ヲ以テ行ハレタ
- 六、出資者
維新政府及日本側銀行
- 七、出資者タル日本側銀行名及出資額如何
興業銀行五百萬圓朝鮮銀行、臺灣銀行、三井銀行、三菱銀行及住友銀行各四百萬圓計二千五百萬圓テアル、即チ中文ニ於テ現ニ營業シテ居ル日本側銀行ガ資本金ノ半額ヲ引受ケタ譯テアル
- 八、正金銀行ガ出資セズ興業銀行ガ出資シタル理由如何

正金銀行ハ條例上他ノ銀行留社ノ株主ニナルコトカ出カナイカラ便
宜興業銀行ヲ代リニ出シタノテアル

九、第三國側及中國民間側ノ出資ヲ謀ムルヤ

大イニ歡迎スル、尙假令出資ニ於テ協力スル迄ニハモラストスルモ
本銀行ノ業務遂行ニ積極的援助ヲ與ヘランコトヲ希望シテ居ル

十、役員如何

現在ノ處テハ、日華兩國人テアル、併シ前記ノ如ク第三國側モ其本
銀行參加ノ狀況ニ依リ役員ニ入レル用意カアル

(向之ヲ機會トシ日本側重役陣容ヲ發表ス)

十一、本銀行ニ發行權ヲ與フル理由如何(新券ノ發行ヲ必妥トスル理由)
中支經濟ノ重點ハ貿易ニ在ルカ事變以來金融便シテ既存通貨ヲ以
テシテハ之ヲ用フニ其機能カ十分テナイ爲メ貿易業者並ニ民衆ノ困
却著シイモノカアル、又法幣ノ前途ニハ暴落ノ危險カ多分ニ存シ其
場合ニ民衆ノ蒙ル損害ヲ防止スル手段ヲ講シテ置カナケレハナラナ

イ、依テ維新政府ハ本銀行ニ銀行券發行ノ特權ヲ賦與シタ次第テア
ル

十二、本銀行ハ中央銀行タル性質ヲ有スルモノナリヤ

本銀行ハ前記ノ如ク主タル目的カ中支貿易金融ノ圓滑ヲ計ルニ在ル
ノテアツテ當然ニ中支乃至ハ全支ノ通貨調節或ハ整理者トシテノ中
央銀行タル役割ヲ有スルモノテナナイ

十三、本銀行券發行ノ具體的總略如何

本銀行ノ機能ニ鑑ミ本銀行券ハ當分當ニ外貨ト調換セシメテ放出ス
ル如ク操作セラレ其實際ニ發行セラルル總略ハ左ノ如キモノテアル

一、輸出前貸

二、外國爲替擔保貸付

三、輸出爲替買收

四、法幣トノ交換

五、本銀行券預金ノ拂出

等

尤モ將來國內産業資金トシテノ放出ニ付テモ考慮ガ加ヘラルルテアラウ

十四、本銀行券ニハ強制通用力ヲ與フルヤ
本銀行ニ對シテハ強制通用力カ與ヘラレ租稅等ハ民間ノ債權契約ノ履行等ニモ勿論本銀行券ヲ以テ納入セシムルコトナルカ海關稅ハ特殊ノ性質ノモノタカラ當分從來通りニシテ置ク考テアル

十五、本銀行券ノ兌換及其準備如何

本銀行券ニ對シテハ本銀行又ハ爲替取引契約銀行ニ於テ自由ニ外貨兌換ニ應スル從テ本銀行券ヲ所持スル者ハ何時ニテモ外貨ヲ取得スルコトカ出來又輸入爲替モ自由ニ買取ルコトカ出來ル、而テ其兌換準備ハ「スタート」ニ於テ十分ナル上本銀行券ノ放出過程カ前記ノ如ク外貨トノ關聯ヲ有スルモノ故準備率ハ常ニ百「パーセント」近イモノテアリ、假々百「パーセント」ヲ超ヘルニ至ルテアラウカラ本銀行券ノ外貨兌換ニ付テハ些カノ心配モトイ

十六、外貨トハ具體的ニ何ヲ指スカ
外貨トハ對外決済ニ支障ノナイ外國通貨ノ謂テアル

十七、新券ノ償還基準如何
差當リ現國民政府法幣ノ市場相場ト等價トスル、從テ國內物價乃至輸入物價ニ變動ヲ與フルコトナク之ヲ使用スル民衆ニトツテモ經濟上何等ノ障礙ヲ受ケルコトカナイ

十八、本銀行券ハ法幣ト交換セラルルヤ
 右述ノ如ク本銀行券ハ法幣ト價值基準ヲ等シクシタカラ充分之ト等
 價ヲ以テ交換ニ應スル、手續料ハナイ、一般民衆ハ必要アル場合ニ
 ハ本銀行又ハ爲替取引契約銀行ニ於テ本銀行券ヲ法幣ニ交換スル
 トカ出來ル

十九、法幣ノ流通禁止ヲナス意向アリヤ
 法幣ニ對シテハ差當リ格別流通禁止等ヲスル考ハナイカ將政權ノ出
 方如何ニ依テハ例トモ言ヘナイ、同法幣ノ將來ニ於ケル價值低下ニ
 對シテハ本銀行ハ何等責任ヲ負ハザルハ勿論デアル

二十、法幣暴落ノ場合本銀行券モ之ニ伴ヒ其價值ヲ引下ケラルルモノナ
 リヤ
 本銀行券ヲ差當リ法幣ト等價値トスルノハ本銀行券ノ使用ニ因ツテ
 民衆ノ日常生活上懸變ヲホスコトヲ避ケル目的デアルカラ法幣暴
 落スル極ナ場合ニハ民衆ノ利益擁護ノ立前カラシテモ政府及本銀行

ハ責任ヲ以テ法幣ト等價値ヲ維持スル決心デア
 二十一、本銀行券發行ニヨツテ軍票ハ禁止セラルルヤ
 軍票ニハ軍票ノ使命モアルコトタカラ本銀行設立ニ關シテ軍票カ
 禁止セラレルコトハナイ

二十二、本銀行券ト軍票乃至日銀券トノ關係如何
 軍票乃至日銀券ニ對シテハ出合ノツク範圍内テ交換ニ應スル
 (滿銀券、蒙銀券、中銀券同斷)

二十三、本銀行券ノ流通見込如何
 前ニ述べた如ク本銀行券ハ常ニ外貨ト兌換セラルル健全ナル通
 貨デアルカラ其經濟的實力ニ依リ内外ノ信用ヲ得テ漸次流通増加ス
 ルニ至ルコトヲ確信スル、又維新政府ノ治安工作ノ發展モ本銀行券
 ノ流通ヲ促進スルデアラウ

二十四、經營收支ノ見込如何
 此ノ點ニ付テハ十分ノ自信カアル經營上何等ノ心配ハ要ラヌ

二十五、本銀行券ノ流通ヲ阻害スル者ニ對スル處置如何
 法令（民國二十七年十二月十日公布財政部訓令）非常時期財政經濟後
 取諸條列等）ニ照シテ夫々處置シ候旨シナイ

二十六、本銀行券ハ在支日本人間ニモ強制使用セシムルヤ
 使用ヲ強制スル譯テハナイカ日本人ハ本銀行券ノ流通ニ協力スルコ
 トハ勿論テアル

二十七、本銀行券ハ漢口等奧地ニモ流通セシムルヤ
 自然奧地ニモ流通スルニ至ルテアラウシ又夫ヲ希望スル

二十八、本銀行券ハ南支ニモ流通セシムルヤ
 本銀行券ヲ南支ノ通貨トスル意思ハ持ツテキナイ

二十九、本銀行券ハ世界内ニモ流通セシムルヤ
 前記ノ如ク本銀行券ハ元金ナル外兌換性ヲ有シ第三國人ノ利益ヲ
 十分考慮スルモノテアルカラ其協力カ期待出來ル從テ世界内ニモ漸
 次流通スルニ至ルテアラウト信スル

三十、為替管理乃至貿易管理ヲ行フヤ
 準備リ之ヲ行フ能リハナイ

三十一、日本ハ本銀行ノ操作ニ依ツテ中支貿易ヲ獎勵スル意圖ニ非サル
 ヤ
 本銀行ハ中支ノ經濟復興ヲ目標トシテ設立セラレタルモノデアツテ
 左様ナ意圖ハ些カモ含ンテ居ラヌ

三十二、事前三第三國ト交渉ヲ爲シタリヤ
 然リ

三十三、本銀行設立ト揚子江開放問題トノ關係如何
 揚子江開放ハ日本軍作戦上ノ問題デアツテ本銀行設立ト關係ハナイ

三十四、中國銀行ニ對スル處置如何
 維新政府ノ法令ヲ遵守シテ本銀行ニ協力シ以テ中支經濟復興ニ寄與
 セントスル中國銀行ノ復活ハ之ヲ歓迎スル

三十五、「クレヂット」ノ設定ナキヤ
 回答ノ限リニアラス

維新政府等ノ出資命ト海關領命トノ關係ニ付テハ富方ヨリ之ニ
、コトヲ避ケルモノトシ出資命ハ海關領命ヲ充當シタルニ非ザル
ノ旨問ニ向シテハ其ノ然ラザル點ヲ強調スルモノトス

十八) 銀行創立ニ際シテ、中華民國維新政府聲明書(譯)

本政府成立以來既に一年餘、其の全力を傾注して中支那地域の秩序回復と經濟復興とに盡すし來り著々其の效を收めつつあるの秋、茲に華興商業銀行の設立を見たるは衷心より慶賀に堪へざる處なり。

惟ふに現在、中央、中國、交通、農民等の發券銀行は、く蔣政權の政治的軍事的目的に左右せられ、銀行の經濟的職能を没却し、民衆の金融上、經濟上の利便は全く杜絶せられ居るものと自らも過言に非ず。加之、蔣政權は、其の溢れる抗戰思想の爲に民衆の公富を濫用して省る處なく、金融機關の内容は日に悪化の一途を辿り今や極端なる腐蝕粉飾に因り機に餘喘を保ち居るに過ぎず、而も蔣政權の没落の暁かなるは火を踏むに等しく、従つて法幣の前途亦逆瞻すべからざるものあり。一度金融通貨機構の崩壊より來る災禍を思へば眞に凜然たるものあり。

茲に於て、速に適切なる手段を講じ、金融通貨の方面に於ける病的

現状を匡救するは、我中支復興の要諦焦眉の急と謂はざるべからず。之、華興商業銀行を設立し新通貨を發行せしむる所以なり。

本銀行は其の設立の趣旨よりして、純粹なる經濟本位の商業銀行にして、主として、貿易通商に付、金融の圓滑を圖り、以て民衆の經濟的伴侶たらんことを念願するものにして、本政府は本銀行の重大なる使命に顧み本銀行をして凡ゆる政治的考慮乃至干渉より立しめ其の健實なる發展を期するものなり。

而して、本銀行の發行すべき新通貨は常に自由に外貨に兌換せらるるものにして、本政府は、責任を以て其の價值の安定性を確保し之に依り不富なる政治的壓力の下に、其の將來に全然信を措き得ざる法幣を取引の用具とする爲に、不慮の不安慮に置かれ居る民衆の經濟的利益を保護せしむるものなり。

本政府は既存金融機構が遂に純粹なる經濟的機關たる本然の姿に立返り、本銀行と共に民衆の經濟的福祉増進の重任を分かち何ふべき時期

の到來を祈念して已まざるものにして、本銀行の設立を機とし、既存金融機構の覺醒と其の甦生とに對し、積極的な助力指導を與へんことを期し居るものなり。

本政府は、茲に、内外人士が本銀行設立の趣旨並に其の運営の方針を諒察し、之か利用者たると共に理解ある協力者たらんことを切望して已まざるものなり。

最後に、本銀行設立に當り反邦日本帝國朝野より寄せられたる協力援助は眞に絶大なるものあり、茲に特記して深甚なる謝意を表すること共に尙、將來本銀行に對し、不測の指導鞭撻を與へられんことを冀ふ次第なり。

中華民國二十八年五月一日

中華民國維新政府

(十九) 華興商業銀行券使用に關し民衆に對する財政部布告(譯)
維新政府財政部布告

今般政府は中支民衆の經濟生活の安定、取引の圓滑を圖る爲華興商業銀行を設立し銀行券の發行を許可することとしたり、其の詳細は本日別に政府より聲明書を以て發表したるを以て衆庶宜しく之に就いて政府の意の存する所を諒解し本銀行券の圓滑なる流通に協力すへし、若し之が流通を阻害するか如き行爲を取つする者あらは後に公布したる非常時期財政經濟擾亂取締條例其の他の法令に照らし假藉する所なく罰すへし、政府は本銀行券に對し漸次一般的強制通用力を賦與するの方針なるも尋常海關稅を際き一切の租稅は爾今本銀行券を以て納付すへし但民衆の困迷を避くる爲め本銀行開業後當分の圓滙法幣を以て納付するも本銀行券と等價を以て受入らるへし、向民間に於ける債務契約の履行、買買取引に於ても本銀行券を使用すへく之が收受を拒む者あらは均しく法に照らして起罰すへし
右布告す
中華民國二十八年五月一日

財政部部長代理 嚴 家 燾

(二十) 銀行創立ニ際シテノ興亞院華中總務部長官聲明

本日華興商業銀行の創立總會が閉りなく終了し愈近く開業して新銀行券を發行するの運びに至つたことは是に慶賀に堪えない所である本銀行が中支經濟の復興民衆の福利増進に内外國人の通商取引に寄與する所大なるを信じ其洋々たる前途を祝賀すると共に中外人士の協力を希望して已まぬ次第である
惟ふに上海に專變勃發するや國民政府は速早く金融安定辦法を布いて預金の引出を制限し今日に至る迄之を解除せざるのみならず、次いで撈運鈔票制限辦法を設けて被占領地域への法幣持出を極度に抑止し爲めに長江一帯は金融全く杜絶し民衆の困厄洵に甚しいものがある
又國民政府法幣は昨春一舉四方の暴落を演じ民富の大損を招いたことは周知の通りである、其の後外國の支援に因り幾かに八片を維持してゐるけれども法幣の前途に多大の不安を感してゐることは國民

政府當局及法幣を支持せる外國人自身が敢て能く認識せる所であつて、以て近國民政府が英國に補て法幣の爲めに安定資金を設定して低落阻止に乗り出したのも全く此の爲めに外ならぬ。

我日本現地當局は維新政府當局の石に逃へたる金融便害の打開と前途不安なる法幣を所持して蒙る民衆の不測の損害の未然防止とに對する有効適切なる方策研究に全幅的協力を拂つて來たか、漸く確信ある方法と十分なる準備とを完了し得たので、茲に日支協力を以て華興商業銀行の設立を見るに至つたのである。

茲に本官は東て内外人士が能く本銀行設立の趣旨を諒解し十分なる協力を與へられんことを切望する時に、我在留邦人諸士に對し本銀行に對し積極的援助を與へ其の發行する銀行券は平先之を各段の取引に使用して友邦維新政府の滯業の達成に參畫せられんことを要請する次第である。

昭和十四年五月一日

興亞院華中連絡部長官 津田 耕 枝

二十一

銀行開業ニ際シテノ副總裁談話

五月一日滯りなく副立總會を卒へた本銀行はいよいよ此十六日を以て開業の期となつた、本行設立の主たる目的は貿易金融の疏通を計り一國財果の安定に資するにありて、この銀行券は決して法幣に對する戰亂的通貨にして、これをアタックすること、役割を有するものでなく法幣と併行通達せしめ本行並に日本各銀行において法幣と同價交換を行ひあぐまでも健全な經濟的基礎にたつて自由に外貨に兌換して行く健全通貨である、随つて本行の本質が漸次理解せられて行くにつれて必ずや各種のルールマが解消するであらうことを確信する要は、新銀行券の發行により中支における金融便害の現状を打開して民衆の福祉を増進し經濟の復興安定をはかり東亞新秩序の建設に貢獻せんとするに外ならない。

九華興商業銀行券ノ價值基準ニ關スル件

203

REEL No. A-0284

0 : 1 5

アジア歴史資料センター